

ジュニアボールルーム・ラテン部門出場

斎藤隼一・小西乙愛組

ご支援ありがとうございました！

社交ダンス選手なら、誰もが憧れるブラックプールに四月一日から、僕達は行きました。

朝、会場での練習に行くと、大きなフロアに人が一杯で、国の名前が入ったジャージを着てる人があちらこちらに居ました。同じ小学生とは思えないくらい、身長が高く、カッコいい人達が、色んな国から一杯来てるのが分かりました。

大会は午後からなので、ホテルに戻り、先生がみんなの髪をセットしてくれました。

初日はジャイブ選手権、背番号 40、1 ヒート目、緊張する、ドキドキしていたら、コールされ、慌てて手を繋ぎフロアに行きました。必死に踊った、曲はあっという間に終わりました。絶対にもう一度踊り



たい、不安な気持ちで祈りながら二回戦を待ちました。4 回戦のコールでは、40 番呼ばれませんでした。

他の種目も頑張りましたが、三回戦には行けませんでした。

悔しかった、じっとフロアのトップの選手たちを見ました。トップの選手たちの表情、表現が豊かで、動きにキレが有って、何かを伝えてる様に踊っているような気がしました。みんなとても自信がある様に見えました。

フロア以外では、歩く姿勢、立ち姿、出番迄は座る事なく、何度も何度も繰り返し練習していました。常にどうすべきかを考え、地道に努力や練習がフロアで輝き、自信に繋がっているのだと思いました。沢山の方々の支えがあって、この貴重な経験が出来ました事を感謝しています。あの時の気持ちを忘れる事なく、これからも練習を重ねて、色々と挑戦したいと思います。ありがとうございました。

私はブラックプールに行くのは3 回目です。去年までの事を思い出しながら練習してきました。私と外国選手の踊りに大きな差があったからです。ですが今回は、さらに上手な人がいっぱいいるように感じました。

どういう違いを感じたかと言うと、スタンダードについて、タンゴでは、首をふる時にホールドがくずれないところです。私のホールドはまだまだくずれがち



です。ヴェニーズワルツでは、踊りが進み苦しくなってくると、それが顔に出てしまいきつい顔をしてしまいます。他の選手も苦しいはずなのに、それを顔に出さず踊っていました。最後まで優雅でした。

ラテンについて、ルンバでは外国選手は私より音を長く使い、つま先と後ろ足をしっかり伸ばしていてとてもきれいでした。サンバでは音の取り方が細かく、私の踊りが大まかな音でしか踊ってない事がよく分かりました。ルンバもサンバもウォークがしっかりしていてヒップもよく動いていました。ジャイブでは、力強くしようとする、つい力んでしまいましたが、外国選手は力強いのにしなやかで軽やかでした。そしてリズムに乗り、音が止まらず、しっかりと跳ねていました。ラテン全種目に感じた事は、手に力を入れる事です。手が震えるくらい力を入れているのが見えました。私には足りない部分でした。

また、入退場の歩き姿、曲が始まるまでの立ち姿が堂々としていて、ポーズをきめていました。これはすぐに真似しました。

世界は広く、たくさん上手な子がいました。3回戦までしか進めなかったのも、実力不足です。来年からは

ジュニアですが、ジュブナイルのベーシックもしっかり復習し直し、ジュニアでも世界で戦えるような体になりたいです。

